



林 輝さん(26)
備中町西山

榮農王国「山光園」(備中町西山)でピオーネ栽培に取り組む林輝さん。3年前に妻・かおりさん(26)、長女・霞ちゃん(4)とともに岡山市から移り住みました。その後、次女・沙優ちゃん(2)、3月には三女・七海ちゃん(2)が誕生し、現在は家族5人での生活です。2年間の研修を終え、昨年4月に就農。このほど、市から就農奨励金が授与されました。

「山光園」はトマト、ピオーネ栽培農家の後継者育成、新規就農者・若者定住を目的に旧備中町が平成15年8月に整備。現在、10組の新規就農者が暮らしています。

輝さんはマスカットや白桃などを栽培する専業農家に育ち、大学卒業後に広島県でピオーネ栽培の基礎を学んだ後、受け入れ制度の充実していたこの地での研修生活を選びました。「まずは生活を安定させることが一番。今は十分な収量はありませんが、これから規模を拡大して頑張ります」と抱負を語ります。ここでの生活には「車があるので生活には事欠きません。自然が豊かで空気もき

農業にかける



「夫婦で取り組んでこそ農業という将来をしつかりと見据えた輝さんの言葉は印象的で、これからの活躍が期待されます。」

〈その他の就農奨励金授与者〉
瀧田賢二さん(26)松原町春木、岡島広己さん(49)有漢町上有漢、平井和樹さん(40)有漢町有漢、宮入健二さん(41)備中町西山、長澤光男さん(39)備中町西山、黒岩正樹さん(38)備中町西山

れい。子育てには最高の環境」と満足そう。

かおりさんは、「ここには同じ年ごろの子どもを持つ家族が多く、互いの交流で育児の気分転換ができました。ただ小児科がもっと近ければ」と、子育てへの不安をちよつぱり。

これまでは、育児から手が放せなかつたため、農業に携わることができませんでしたが、合併で近くの保育園が公立となつて、子どもを預けやすくなり、「これからは私も栽培の勉強をしなければ」と意欲満々。

アメリカ トロイ市からのお客さま

3月30日から4月2日の日程で、国際姉妹都市縁組を結んでいるアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市からピーマシシユ市長ら8人が本市を訪れました。

今回の訪問は昨年6月、秋岡市長を

はじめとするトロイ市への公式訪問時に要請したもので、国際親善と交流を図ることを目的にしています。

訪問団は滞在中、市内視察や市民の皆さんと交流し、親善を深めました。

〈トロイ市公式訪問団〉

マイケル・ビーミシシユ市長、ウイリアム・ローラー市議会議長、デイヴィット・アンダーソン助役、トーマス・ダン教育長、チャールズ・コックラ

ン商工会議所会頭、ロナルド・スコット開発協議会議長、アーサー・ハダット執行委員、アレックス・ハラ(通訳)の8人の皆さん



テンポよく餅つき

朝霧温泉ゆ・ら・ら中庭で、松原地域まちづくり推進委員会の皆さんと一緒に餅つきを体験。「ハイ!ハイ!ハイ!」と声を合わせ力強くついていました。つき上がった餅は、あんこ餅、きな粉餅にして、「おいしい、おいしい」とほお張っていました。

吹屋小学校児童から英語で質問



児童たちが聞きたいことを事前に用意し、英語で尋ねました。「吹屋の印象は?」との問いに、「トロイ市の歴史は200年ほど。吹屋は古い建物を今も大切にしている素晴らしいところです」と答えていました。



子ども福祉学科誕生!

社会福祉学部 子ども福祉学科長 栗田 喜勝



吉備国際大学社会福祉学部では、保育所をはじめとした児童養護施設等の児童福祉の現場から、「福祉をきちんと学び、健常児だけでなく障害を持つ子どもたちの発達支援や、子育てに自信が持てず悩みや不安を抱く親に対して、子育て相談や子育て支援のできる保育者を養成してほしい」という強いニーズを受けて、3年前に社会福祉学科内に保育士養成課程を設けたところ、多くの履修希望者があったため、このたび新たに『子ども福祉学科』を設置することになりました。

『子ども福祉学科』がめざす教育目標は、社会福祉を広く深く学ぶことをベースとして、子どもたちが育つ家庭や地域における子育て支援の考え方や具体的な援助方法について学び、子ども自身に対する直接的な成長発達の援助（子育て支援）はもちろん、親や家庭に対する子育て支援も

できる子育てのスペシャリスト（保育者）を養成することです。

学生たちには、ただ単に子どもが大好きで子どもと一緒に遊びたいという気持ちだけでなく、現実的な子どもの成長発達の姿を客観的にとらえ、その子どもに必要な援助は何か、親や家庭の子育て状況を理解する中で、子どもの健全育成に必要な子育て支援とは何か、問題状況を見極める力と具体的に援助できる力を身につけてほしいと思います。そして卒業時には、社会福祉士国家試験受験資格や保育士資格、幼稚園教諭一種免許等の資格を取得し、将来子ども福祉の第一線で活躍する有能な保育者になることを期待しています。

■問い合わせ・申し込み 高梁学園広報室 フリーダイヤル0120-25-9944 / e-mailアドレス:koho@kiui.ac.jp

4月の定期人事異動で2年間の広報紙づくりにはピリオドを打つことになりました。「夢を持ち」「知恵を出し」「元気に」をモットーに自分なりに奮闘してきたつもりですが、空回りすることもしばしば。この仕事を通じて、まちの歴史や文化、自然、伝統行事などを再発見でき本当に幸運でした。そして、何より、取材先で多くの市民の皆さんに出会い、交流できたことはかけがえのない思い出です。

編集後記

あとは後任のMさんにバトンタッチしますが、今後とも「広報たかはし」をよろしく願います。
4月から広報を担当することになりました。初取材は緊張のあまり、質問もしどろもどろ…。これから先が思いやられますが、これから出会うであろう多くの皆さんとのふれあいを大切にしながら、一日でも早く初心者マークを外せるようがんばりますので、よろしく願います。
(YM)



消防署では、はしご車に乗って訓練を体験



さらなる友好を誓って植樹

文化交流館の庭に、未永い友情を誓って両市長をはじめ、一行の皆さんで桜の苗木を植樹しました。



保育園で大人気

鶴鳴保育園を訪れた一行は、園児の鼓笛隊に迎えられました。その後、ホールで園児たちの歌の歓迎を受けた後、「さくら」を一緒に歌いました。一行はとても気に入りもう一度歌いました。フォークダンスでは抱っこや握手をしてもらい園児たちは大喜びでした。

